



『トクシマ・アンツアイガー』

第8号

徳島 1915年5月23日

東部戦線の出来事（3）

11月の半ばに、ロシア軍は大規模な攻撃を始めた。東プロイセンへの攻撃はわれわれにはね返された。ポーランドではわれわれは先にロシア軍を攻撃することで勝ちを占めた。11月13, 14, 15日に、ヴウオツワヴェクとクトノでロシア軍を打ち負かし3万人以上を捕虜にした。

これにウッジ（Lodz）を中心とする大きな戦闘が続いた。わが軍はロシアの第2軍と第4軍を南から包囲することができた。けれども最後の最後になってロシア軍は戦場にたくさんの援軍を送り込むことに成功し、一部は強力に背後を攻めてきて閉じ込められてしまいわが軍はとても危険な状態に陥った。ある大胆な行動だけがこうした勇敢なドイツ軍を救うことができたが、それはうまくいった。11月24日から25日にかけての夜これらの英雄はブジェジニへの血路を開き、1万7千人を捕えたたくさんの大砲

などを捕獲し西にいたドイツ軍との連絡をつけた。

ロシア軍はわが方に絶えずエネルギーに攻撃をしかけたが、全体としては甚大な被害を受け撃退された。

こちらには新たな援軍がやって来たので、12月初めにはポーランドの全戦線で攻勢に転じロシア軍をウッジの西方に押しやった。ロシア軍はミエイスカの背後を新たな基地とした。南ポーランドでもロシア軍は後退した。このとき手に入れた新たな戦線では、先月は絶えず執拗な戦いが展開された。われわれの勇敢な部隊は、ひどくかたくなに防御するロシア軍から陣地を強引に奪取しなければならなかった。

2月半ばにふたたび、東プロイセンと西プロイセンが強力なロシア部隊に脅かされた。

われわれもマズール湖地域のこれらの州を守るため強力な軍団を集結し、そこで2月中旬に「マズールの冬の戦い」と言われる、戦争全体の中でももっとも激しい一つである9日間にわたる戦闘になった。人間の力を超える困難を克服してドイツ軍は敵を包囲することができた。もちろん戦果にはそれなりの犠牲を伴った。ロシアの第10軍は壊滅し、13万の捕虜とたくさんの捕獲品がわが方に帰した。

そうこうするうちにロシア軍は、大変な勢いでハンガリーへの侵入を狙ってカルパチア山脈の隘路を攻撃してきた。彼らは確かにたくさんの道で戦果を挙げた。けれどもわが方つまりドイツ軍とオーストリア・ハンガリー軍は連携し、カルパチア山脈に相応しい攻撃隊形を取った。こうしたことは1月半ばには取りかかれ、困難な戦いの後にロシア軍を少しずつ後退させ、ハンガリーを敵の侵入の危険から解放した。

これらの活動の一部は同時に、包囲されていたプシェミシル要塞の救援を目指していた。けれどもこうした試みはロシア軍の頑強な反撃によって失敗したが、4月の始めにはロシア軍が1万人以上を失いその駐屯地はこちらの手に入った。ここでの損失も痛かったろうが、この戦場での大勢に影響するようなものではなかった。しかしわが軍はゆっくりだが少しずつ

ガリチアへの前進を続け、3月始めまでウッジの勝者であるマッケンゼン中將の指揮する強力なドイツ・オーストリア軍が、クラクフーチェストホヴァから急襲をかけ、最新の情報によるとロシア軍はサン川対岸まで退いたという。ドイツからの報告ではないがードイツからの電報は今月初めからも届いていないー、わが軍はこれまでの戦いで30万人のロシア兵を捕虜にし、600基の大砲を捕獲したそうである。このような状況を維持しさらに勝ち進むことができれば、ロシア軍は、50万人以上を費やしたカルパチア山脈での作戦を諦めざるを得なくなろう。この輝かしい勝利がどうなるのかはまだ見極めがつかない。

これらの進軍と同時に、その規模は定かでないがあるドイツ軍が東プロイセンからロシアの東部地方に侵入し、シベリア鉄道の集結点と有名な堅固なりバウ港を占拠した。

ロシア側は最近ブコヴィナでドイツ・オーストリア軍を攻撃し、戦果を挙げたというーロシアの報道では2万人のオーストリア兵を捕捉ー。おそらくこうしたロシアの活動は、万が一必要になるかもしれない自軍をカルパチアから切り放せるようにし、左翼の動きを防ごうという努力と見ることができよう。

日本の歴史（7）

大化の改新は現状のすべてを変革することで官職と土地所有の世襲を廃止し、あらゆる政治権力は天皇のもとに統一された。エネルギーな天皇たちはしばらく改革を続けたが、奈良時代にはすでに、さほど大きくはなかったが天皇から絶大な権力を与えられた何人かの支配者がいた。こうしたことが広まったのは次の時代においてだった。個々の一族がふたたび特定の官職をみずからのものとし、その官職と結びついた土地とともに受け継ぐことに成功した。こうして独立した土地所有が生まれ、ことに京都

の中央政府から離れた僻地ではかなりの自衛権を持った。当時大化の改新の遂行に功績のあった藤原氏も、それによって手にした地位を弱体な天皇のもとで悪用しできるかぎりたくさんの権力をみずからのものとした。この一族は奈良時代にはもう常に宰相の地位を占め、幼い天皇の後見を引き受けたり、成長した天皇の摂政政治の番人となることで事実上の政治権力を握ることに成功した。天皇家はあらゆる力を失い、藤原氏が好きなように操作した。彼らはみずからの権力を、できるだけ自分自身のための大きな利益を引き出すように利用し、官吏や貴族の家々に反対給付を与えるとという特権を行使した。

藤原良房が最初にまだ幼い後清和天皇の後見人になり（858年）、それからほとんど絶えず後三条天皇が統治するまで（1068年）、藤原氏の誰かが権力を持たない天皇の後見人や摂政となった。権力の頂点に立ち、藤原氏は好きなように天皇の首をすげかえた。

藤原氏は京都に見事な宮廷を作り上げた。芸術や学問が新たな花を咲かせ、ことに宮廷婦人によって培かれたすばらしい文学が生まれた。

この時代の中国は内乱が絶えず壊滅的な状況にあったため、この国との公的な関係は打ち切られた。その結果中国文化のより以上の影響はなくなり、それ以前の時代に中国から得られた基盤は日本的な精神と日本的な感性によってさらに発展させられることになった。中国服は流行おくれになり、代わって着物が現れた。

藤原時代の宮廷生活には何かひ弱で女性的な気風があり、宮廷の豊かさと贅沢には飢饉や疫病で苦しむたくさんの民の困窮が厳しく対応していた。藤原氏の政治的努力は、主として権力の行政面に向けられた。頻発した力のある貴族仲間や傭兵を持つ僧院の反乱、あるいは外敵との戦いの際に、彼ら自身が国の軍事的防御に当たったことはなかった。こうした課題に対処するために彼らは、僻地の大地主所有者から特別の軍司令官を任命した。この連中は柔弱な宮廷生活から隔たり、激しい戦いの中で巧みな戦術をわきまえ身につけていた。ことに戦争の成果では、平（たいら）と源（み

なもと)の2つの氏族が際立っており、それによって大きな権力を持っていた。他方大土地所有者の家臣から、われわれの中世のミニステリアーレ¹に似た職業的な戦士階層が生まれ始めていた。大土地所有はほぼ1,100年頃ですでに土地所有全体の19分の1を占めていたようで、12世紀の終わり頃には平氏だけでその半分を持っていた。軍事力を持っている者の権力の拡大に対しては藤原氏は何も手を打つことができず、彼らの影響力はほとんど首都周辺の地方を越えることがなかった。他方西の広い地域では平氏が、東では源氏がほぼ権力を握った。

つづく

聖霊降臨祭コンサート！

演奏曲目

I.

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. オペラ『ドン・ジョヴァンニ』序曲 | モーツァルト |
| 2. ヴァイオリン協奏曲ニ長調から「カンツォネッタ」 | チャイコフスキー |
| 3. 弦楽三重奏曲から「シチリアーノ」 | ハイドン |
| 4. リクエスト曲：「パストラル」 | アイヒホルン |
| 5. 結婚セレナーデ | クローゼ |

II.

- | | |
|------------------------|-----------|
| 6. 万歳、皇帝がやって来る 自動車行進曲 | トランスラトゥール |
| 7. オペラ『ファウスト』から大幻想曲 | グノー |
| 8. 「あなたの胸で夢見させて」 | クラジンスキー |
| トランペットのための歌 独奏 ギュンシュマン | |

1 家士：中世の封建領主に仕えた非自由民だったが、のちに自由民となり功勞によって騎士になった。

9. 褐色のワルツ（ラ・ヴァルス・ブリュヌ）

クリーア

10. 花の乙女 ツーステップ

ヴェンリッヒ

われわれの実直なオーケストラは、これまで偉大な音楽の分野からたくさんすばらしい曲を身近なものにしてくれたので、いつも新たな希望を持って次のコンサート待ち受けることができた。けれどもほぼ変更のない形で、モーツァルトの序曲のうちからいつか『ドン・ジョヴァンニ』を聴けるとはまったく期待していなかった。これも、机と譜面台で懸命に働いてくれる勤勉な指揮者のお陰である。こうした熱意をもって仕事に取り組むすべての愛する友のお陰である！このような贈り物に感謝したい！もう何度もここでモーツァルトが語られてきた。彼の四重奏曲はわれわれにとって忘れることができないものとなるだろう。この困難な序曲が美しく演奏されて、おそらくすべてのオペラの中で一番知れわたっている『ドン・ジョヴァンニ』にわれわれが浸りきることができればよいと思う。

ハイドンの「シチリアーノ」はすでに、最初の公演の夕べで取り上げられていた。とても楽しかったので、この上品で生き活きた小品をほかのなじみの曲と共にもう一度聞いてみたくなった。ハイドンのこうした本物のホームミュージックを、もっと聴くことができないのはまったく残念なことである。けれどもおそらくこの「夕べ」は、われわれの何人かにとって一つの刺激になったことだろう。彼らはこれによって、いつかまた自分の家で友人たちとともに、「お定まりの」ピアノなしで、より深くドイツの芸術を追及してみたいと思うだろう。この芸術は、少なくともこういった装いであれば演奏することが容易なのである。

ちょっとはしょった形の芸術から、このプログラムはいくつか目新しいことを期待させてくれる。つまり、全ての人になにがしかのものがもたらされるような、さまざまなものを詰め合わせた夕べなのである。

徳島の船の往来

毎日毎日この港に出入りする汽船の、大きないつも気持ちがいいとはいえない警笛やエンジンの音から、徳島にはかなり活気のある船の往来があることに気づかされる。次にざっともっともひんぱんに行き来している船と航路を概観しておこう。ここに寄航する航路で最大でもっとも重要なのは共同会社である。この船会社の船は、煙突に描かれた2本の赤い輪で見分けられる。2本の赤い縞の入った白い社旗で識別されるこの船会社の代理店は、川の対岸の鉄橋の少し上にある。徳島にやってくる共同会社の船は次の通りである。

船舶名	トン数	乗客数
第2 共同丸	401.52	243
第6 共同丸	307.47	277
徳島丸	314.43	199
きとう（木頭？）丸	332.60	168

これらの船の航路は、大阪―神戸―小松島―徳島である。大阪―徳島の全行程（62 海里）の船賃は、一等 2 円 30 銭、二等 1 円 50 銭、三等 95 銭である。

2 番目に挙げなければならない航路は、徳島と南四国とを結んでいるもので、一般によく知られている大阪商船会社である。この航路の船は、煙突に描かれた2本の白い輪で識別される。それらは次の通りである。

船舶名	トン数	乗客数
ばんよう（播陽？）丸	278.00	172
吉井川丸	214.39	163
生田川丸	215.90	166
徳島丸	280.25	200

この航路の船は、共同会社のより小さくて古い。それらの着く港は、小松島―徳島―橘港―日和佐―浅川である。

これら2つのきちんと徳島に寄る航路を除けば、ほかのものはほとんど問題にならない。

徳島からの主な積荷は米・魚と海産物・綿織物いくらかの絹・樟脳・藍である。

木材・下駄・竹などは、高価な船積みを避けて帆船でまとめて運ばれる。

スポーツ

サッカーチームがさらに4チーム²結成された。

Cチーム

ボイトナー少尉

ヘリムート、バンティエエン

ブライトバッハ、ヨーゼフ・ヴェーバー、シュマーレンバッハ

シロ、モンゼース、ヒューブナー、クヴァート、シュテーフェンス

Dチーム

スモルカ

キューパー火工下士、ラープ

カイル、クヴィンテン、シルト

バウエルファイント、アウアー、グライス、ロレンツ、クノープ

Eチーム

グリューネヴェラー

ラゲーゼ、ケルナー

ヘーフト、フローリアン・ケラー、リンデマン

メラー、マイエ、ショルン、ヴェーバー、ヨハン・ザウアー³

2 原文は2チームだが、明らかにあやまり

3 原文はFr.(フリードリヒ)となっているが、これは誤り

F チーム

ウンガー

ゲーベル、グレーベ

ミレンツ、ヴァルター、ハウン

ハイケ、グラウル、ヴァイゼ、シュルゲンス、ブーツマン

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 9 問の解答

1. Td8 - d5 Sb4 x d5
2. Sc7 - b5 任意の手
3. S で摘み あるいは
1. e6 x d5
2. Sc7 - e8 任意の手
3. S で摘み

第 10 問の解答

1. Sf8 - d7 + Kg8 - g7
2. De7 - f8 + Kg7 - g6
3. Df8 - h8 Kg6 - g5
4. Ta8 - a4 Kg5 - g6
5. Sd7 - f8 + Kg6 - g5
6. Kh3 -h2 h4 - h3
7. Dh8 - g8 + Kg5 - h4
8. g2 - g3 詰め

正解は、ベーマー、ヨーゼフ・ヴェーバー、ドーベ、ヴィーザー

第 11 問 白 : Kd3, De1, Tc1, Ld4, Sd2

黒 : Kd6, Dd8, Tc5, e5, Ld7, Bd5, b6, c6, e6, f6, c7, e7

5 手詰め (1861 年「マラコフ塔の攻略」)

第 12 問 白 : Kd8, Tb3, Sd3, Bc7, e5, f3

黒 : Kd5, Bd4

2 手詰め

東部戦線の新しい地図

大広間の前に貼ってある。それらはそれぞれの場所が小旗で見分けられるようにしてある。もちろんこうしたことが可能なのは、小旗が資格のない者によって離されたり、置き換えられたりしていないように厳しくチェックされている場合だけである。

チンタオのドイツ人とともに（２）

病院に転用された建物の中で、医者や志願看護婦がベッドや手術室の準備をしていた。軍の役所で使われているほぼ 100 台の自動車が、食料と弾薬を積んで道を駆けめぐった。なぜなら駐屯軍は、明日か明後日日本軍が上陸し攻撃すると予想していたからだ。事実２ヵ月後に実際の攻撃があったが、それまでの間はドイツ人がすべてのわずかな資源を活用する機会だった。

チンタオのように包囲する側の戦力が優位にあって注目に値する攻囲は、世界の軍事史の中ではごく少ない。日本側は計画をきちんと整え、それを好きなように実施する自由を持っていた。

２万３千の兵は任務を果たすのに十分だったが、それを倍にすることも可能だったし、彼らの大きな攻撃砲がある点では要塞を破壊できないことがはっきりすると、ほかの方法に変えることもできた。攻囲軍の最高司令官である神尾将軍がチンタオ戦の後に私に言っていたが、日本側にとって作戦全体が秋の大演習のようなものだったのである。彼らは時間をかけることができたし、それぞれの部門つまり艦隊、航空隊、野戦砲兵・徒歩砲兵、歩兵を徹底して試し、そうしたければいつでもただちにチンタオの攻撃を有利に終わることができた。将軍は時間をかけ、一点をのぞき、攻囲は日本側にとって理想的な状況下でなされた。膠州周辺を大きな湖に変えた激

しい豪雨が3週間以上日本軍を止めたのである。

この間小さなドイツ駐屯軍は、日本軍が塹壕を越えて攻め込んでくる前にフォン・クルック⁴のパリ進軍がすばやく戦闘を終えることを期待し、中国人が日本の中立違反に反抗することを望み、アメリカ合衆国の介入を期待し、外からの援助がない場合は彼らの基地が失われることを自覚し、どんな藁にでもすがろうとした。

チンタオで、日本軍の決定的な砲撃や防衛線突破以前に前哨戦となる応酬が無かったわけではない。8月24日に日本艦隊の総司令官である加藤海軍大將が、マイヤー＝ヴァルデック総督に無線で膠洲湾の封鎖通告を送ってきた。翌日、それからいつも一つながりの鴨のように水平線を滑って行く戦艦と駆逐艦が現れ、彼らがやや近づいてきたとき、たまたま海岸の砲台の深く響く砲口から炎の弾丸が放たれた。封鎖艦隊には「周防」と「石見」と「丹後」が加わっていたが、それらは以前ロシア艦隊に所属していた1905年に日本軍に捕獲された「ポヴェーダ」、「アリョール」、「ポルタヴァ」だった。

イギリスの戦艦「トライアンフ」も日本艦隊とともにいたが、これはドイツの榴弾が当たった唯一の船だった。これらの船は30.5cmの砲で9マイル以上の距離から射撃したので、ドイツ側にはわずかな反撃の機会しかなかった。というのもドイツ側の口径は、最大でも24cmしかなかったからである。けれども他方船からの距離が大きいことは、砲弾の速さと貫通力にとってはとても不利だった。一発が砲塔に当たり大砲と要員に達し、他の何発かはいくつかのドイツ軍の大砲を壊したが、どの弾丸も弾薬庫や砲撃よけの避難所のコンクリート壁を突き抜けることはなかった。封鎖を破る試みは行われなかった。なぜなら駐屯軍は食料や弾薬に関してはまったく心配なかったからで、フォークランド諸島で悲劇的な結末をとげたド

4 Alexander von Kluck (1846-1934) は陸軍大將。第一次大戦時は対仏戦に当たる第1軍司令官で、1914年にパリ侵攻を目指したが、最前線マルヌの戦闘で負傷し、パリ陥落を果たせなかった。

イッの巡洋艦艦隊はすでに8月初めにチンタオから海に出ており、ロシアの艦隊が1904年に日本の艦隊に旅順港に押し込められた徹を踏まないようにしていたからである。

「シャルンホルスト」と「グナイゼナウ」の出港とともに、ドイツの駐屯軍は自分自身の食料や弾薬にだけ気を配るようになった。10月13日日本とイギリスの船は1時間にわたって砲火を、海上を支配している半島の要塞である会前岬に浴びせた。破裂した砲弾は頂上の土地全体を穴だらけにし、爆破された木々は焦げ町全体をもともに震わせた。にもかかわらず船の側からの命中弾は一つもなく、ドイツ軍の要塞守備隊は最初のきつい砲火の洗礼のあと歓声をあげて出てきた。彼らの方はイギリスの「トライアンフ」に砲弾を当てていた。どれだけの戦果があったのかは確認できていない。翌10月14日にお祝いがあった。ソーセージ付きの軍用パンと1, 2杯のビールだけだったが、敵の砲弾のほとんどは半島を越えた反対側の水中に落しており、たくさんの死んだ魚が水面を覆っていて、それが祝宴を盛り上げてくれた。人々は彼らの守護聖人が助けてくれたのだと言っていた。

つづく

広 告！

ドイツ語の授業は、今月26日（水）から始めます。

エルドニス上級書記官

ダーダネルス海峡

(次ページ地図の説明)

- ① ゲリボル（ガリポリ）半島
 - ② カバ・テペ：オーストラリア軍の上陸地
 - ③ テケ：イギリス軍の上陸地
 - ④ セッデル・バール
 - ⑤ チャナッカレ（クム・カーレ）
 - ⑥ カベ・スルタン領
 - ⑦ キリア・バール
 - ⑧ ナガラ
- } トルコ側の要塞

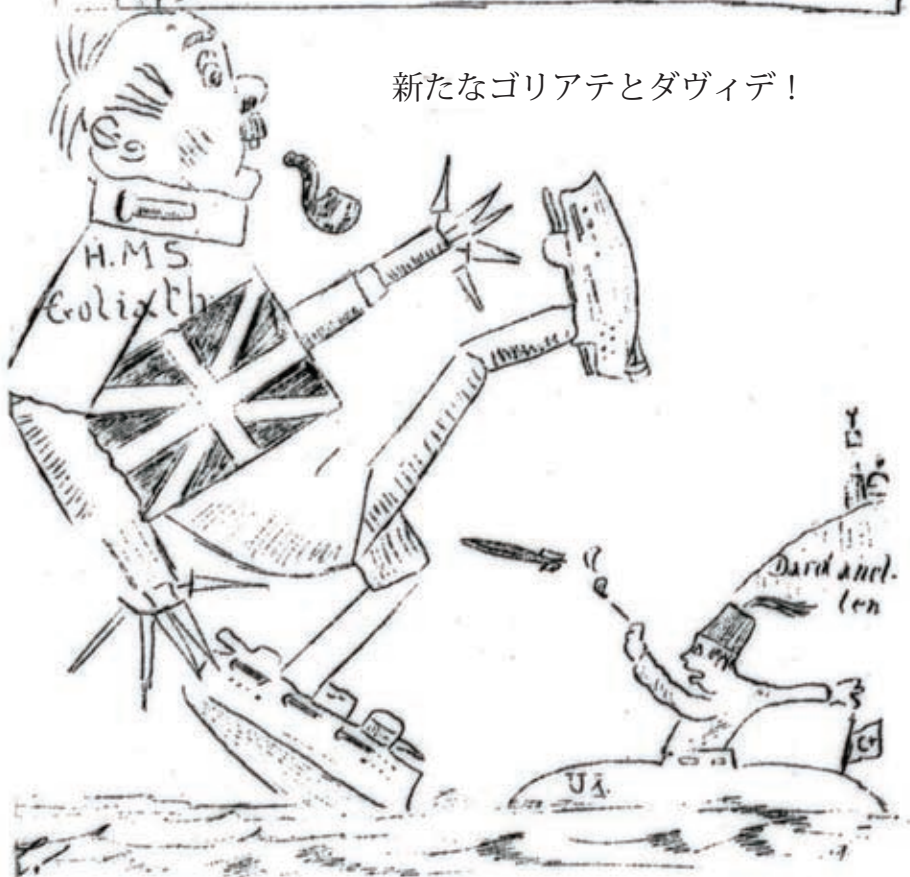
次の船の沈没箇所

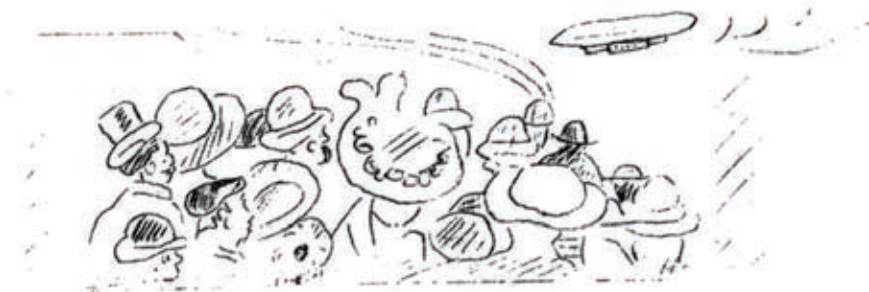
- ⑨ イギリスの戦艦「ゴリアテ」（1915.5.13）
- ⑩ フランスの潜水艦（1915.5.18）
- ⑪ イギリスの戦艦「ロード・ネルソン」（1915.4.4）
- ⑫ イギリスの戦艦「オーシャン」（1915.3.17）
- ⑬ トルコの戦艦「マスディーエ」（1915.4.29）
- ⑭ イギリスの戦艦「アフリカ」（1915.3.17）
- ⑮ フランスの戦艦「ブーヴェ」（1915.3.17）
- ⑯ イギリスの戦艦「イリジスタブル」（1915.3.17）
- ⑰ イギリスの潜水艦「E 15」（1915.4.17）





新たなゴリアテとダヴィデ！

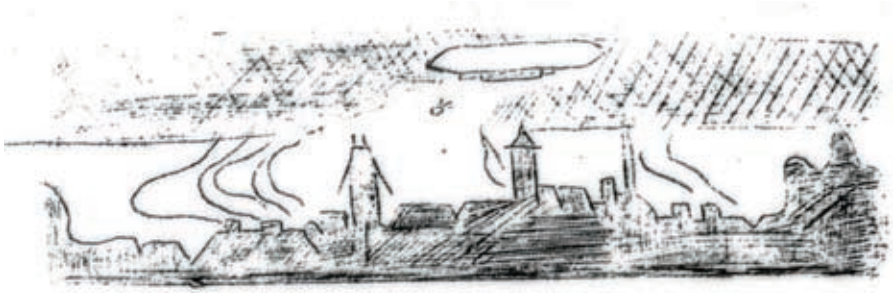




ツェッペリンがドイツにやってくる
家々から湧き出てくる人々すべてが
期待に溢れひどく緊張している
きちんと見ようと首を伸ばしている
求めるようにつま先だって
時間が消えていき時が過ぎていく
雲が脅かし激しい風が
けれど彼はいつまで待たせるのだろう
もう来ないのだろうか、きっとまだやって来る
雨が降ろうが嵐がわめこうが
人々は不安な疑いに耐えている
疲れ弱ってきている
そら、とうとう突然彼は現れた
そこに威厳に満ちてすばやく
雲を通り抜けツェッペリンは漂っている

イギリスで

街は闇に包まれていた
道には人気はなく女も子どももいない
いつものように散歩をする



夜が生暖かく星がまたたくと
ランプの輝きが増す
呼び声も叫びも聞こえない
電車もバスも
車もなく、すべてがもう終わっている
闇を突いて孤独だけが響く
歩哨は歩み静かに「止まる」
緊張しきってその市民は待っている
今夜きっと何かが起きると
あっ！はるか向こうに音が聞こえる
単調なモーターの響き
夜をよぎってサーチライトが光る
奴が来た、奴だ。気をつけろ、気をつけろ！
ホイスル、唸り、呪い、喧騒
もう爆弾が屋根を砕いている
あちこちが荒らされている
それを済ますと奴はまたも去っていった
つむじ風のように通り過ぎて行った
その兆しに気づくやいなや
民衆はおののきながら知る
ツェッペリンが空にあるのを

聖霊降臨祭の鐘の音



軍隊ととどろき渡る鐘の音が告げる
国々での戦争の混乱を
世界中の血と殺し合いを



主よあらゆる悩みの救い主よ
困窮の中での守護者よ
そこで泣いている人を救い慰め
彼らにあなたの言葉を信じさせたまえ

戦いにおいては勇士を守り
正義と自由のために戦わせ
勇気に溢れ死を恐れず
敵の思い上がりを萎えさせてくれる



われわれを助け、手に手をとらせ
しっかり誠意を持って戦わせ
西においても東においても
祖国のために勝利へとお導きを
今はるかな地にいるわれわれ勇士にも
あなたとともに皇帝と国に忠実で
あれという
われわれの古い誓いを守らせ給え